

学校関係者評価委員			(順不同・敬称略)
委員	徳永 由紀子	福岡県立小倉商業高等学校 校長	
副委員長	棟安 正人	北九州市小倉旅館ホテル組合 副組合長	
委員長	佐藤 毅	公立大学法人九州歯科大学 歯学部 口腔保健学科 歯科衛生士育成ユニット 教授	
委員	大森 弘太郎	九州医療スポーツ専門学校同窓会 会長	

評定の意味

- 4 : 適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 : ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 : 対応が十分ではなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある。
- 1 : 全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

基準1. 教育理念・目的・育成人材像等				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
4.0	徳永 由紀子	4	<ul style="list-style-type: none"> 「士魂医才」という教育理念は近年の社会情勢の変化と学生の個性尊重の重要性を捉えており、時代に合致しているといえる。 重点目標に授業研究会や企業説明会、チャリティイベントの実施など具体的な方策が組まれているので、その達成状況をデータ等で示す方が分かりやすい。 	4.0
	佐藤 毅	4	教育理念として、豊かな教養とプロフェッショナルな医療人としての技術を備え、且つ、謙虚で誠実な精神を持つ人材の育成を目標として掲げています。この理念を基に、令和6年度は、授業の改善のための課題を明確にしてブラッシュアップする取り組み、資格試験合格率100%達成のための課題分析と対策の実施、卒後進路の企業説明会の実施、地域との連携のためのイベント参加ならびに開催等、重点目標を掲げて達成していることは高く評価できます。	
	棟安 正人	4	掲げた理念は創立以来継続しており、ブレの無い学校運営が出来ているように思える。理念は学校の内外に分かり易い方が良い。外部へはホームページ等で発信（ただH/Pの中では主張が弱い気がする）、内部でも生徒や教職員が常に目に触れることが出来るよう身近にあるようにするのが望ましい。企業では名刺サイズで持ち歩けるようにしているところもある。	
	大森 弘太郎	4	教育理念やビジョンなど明確であり指針になっていると感じます。	

基準 2. 学校運営

平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
4.0	徳永 由紀子	4	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針をより浸透させるには、学生に対しても具体的な行動計画や数値目標の設定が望ましい。 ・教職員の池を積極的に取り入れる風通しのよい組織文化が醸成されている。 ・人事・給与制度については外部コンサルタントの介入により、適切な人事考課となっている。 ・意思決定プロセスは透明性が高く、教職員の理解と協力を得やすい。 ・システムの老朽化は業務に支障をきたす恐れもあることから、早急に改善すべきである。 	
	佐藤 毅	4	<p>教育理念および法人の運営方針、事業計画を各職員・教員に周知していること、理事会・評議委員会・管理者会議を定期的に行っていること、外部コンサルタントの協力を得て人事考課のための適切な評価基準を設けていること、意思決定システムとして稟議書の回付を行っていること、情報管理システムのリアルタイム管理を行っている点を高く評価します。提案ですが、教員同士、職員同士がお互いに評価をする360度評価を取り入れるのが良いのではないかと考えます。</p>	4.0
	棟安 正人	4	<p>短期・中期の事業計画を策定することで、方向性が認識し易くなっている。ただその計画は現時点のもので、常に見直しが必要で改定する柔軟性も備えて欲しい。</p> <p>意思決定システムはルールに乗っ取って行われている。トップの強い権限ではなく、チェック機能の働くシステムが望ましい。</p>	
	大森 弘太郎	4	<p>日報等で情報の共有など良いと感じます。</p> <p>人事評価制度も更新しているようで、社員の意識の向上が教育にもつながっていると感じます。</p>	

基準3. 教育活動				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.8	徳永 由紀子	4	<ul style="list-style-type: none"> ・各科カリキュラムポリシーに基づき、教育課程編成員会やシラバスの活用、評価アンケートのフィードバックを活用しながら教育活動が進められている。 ・学生の主体的な学びの促進や多様な教育ニーズへの対応、ICTの活用、授業設計の工夫ができている。 ・資格取得の支援体制や学生のキャリア形成にどのように繋がるか明確に示されると評価しやすい。 	3.8
	佐藤 育	4	特別講義・現場実習・担任による定期的進路相談の実施を行っており、各学科に適切な課題を検討して、サポート体制も充実させています。また、成績判定・修了認定も学科の特殊性を考慮して行われていると考えます。一部の学科において、教員の資質向上への取り組みの具体策を検討しても良いかもしれません。	
	棟安 正人	4	<p>各科明確な目標を設定している。 学生へのフィードバックやサポートがなされ、知識習得の後押し了出来ている。授業以外の支援もあるようで、積極的な学生には心強い。</p>	
	大森 弘太郎	3	<p>学科により、教育に関して課題などもあるようで、学力の向上に先生方も取り組んでいる様子も見受けられる。 歯科衛生学科では、単位未修得が多いとあるが、どのくらい多いのか？ その他学科含め状況により改善も必要なのか？</p> <p>鍼灸学科・理学療法学科など教育現場と臨床現場でのギャップ 柔整学科など外部での研修も必要な時代になってきているのでは 教員が感じている学生と臨床現場との差が多いように感じ またそこを改善することが必要と感じていることが多いので 学校として対応しても良いかと思います。</p> <p>教員の知識の向上も必要と考えている学科もあるのでぜひ進めていただきたい。</p>	

基準4. 学修成果				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.0	徳永 由紀子	3	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の高さだけではなく、質的な側面や支援体制、卒業後の追跡調査による分析が必要である。 ・資格、免許については支援体制が整っており、専門分野の評価に直結している。 ・企業の人事担当者から評価を集約する等、教育活動に反映することが望ましい。 	3.6
	佐藤 毅	3	合格率および就職率は概ね良いと思いますが、一部の学科において資格試験の合格率、就職率の向上が課題であると考えます。祖s津行政の社会的評価に関しては、卒業生の進路の把握が重要です。進路を把握できていない学科もあるようですので、どのような方法で把握をするのか、方策を練る必要があると考えます。	
	棟安 正人	3	<p>就職率の向上に向け相談窓口や個別相談などフォローバック体制が整っている。学生自身がその気になっているのか、また何を望んでいるかを伺ってみたい。</p> <p>多くの学科で自己評価が良くない卒業生の社会的評価、在学生が地震の未来を想像し易いようにこの辺りを強化して欲しい。</p>	
	大森 弘太郎	3	<p>学生にとっては、知識や学習量の不足、また資格取得に必要な知識の習得など、学科ごとにさまざまな課題が見受けられます。</p> <p>さらに、就職率の向上を図るために、就職活動の時期についても十分な精査が求められます。</p> <p>卒業生の動向など、調査も課題</p>	

基準 5. 学生支援				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
4.0	徳永 由紀子	4	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、副担任との個別相談やカウンセラーも含めて学生相談の体制や中途退学を防止する仕組みが整っている。 ・相談内容の多様性への対応や利用のしやすさといった点で細やかな指導が行き届いている。 ・キャリアにおいても組織的な支援が行われており、実績に繋がっている。 	3.6
	佐藤 毅	4	就職進路相談への対応は適切になされています。進路相談は早期に実施するのも良いと思います。一部の学科において、中途退学者への対応、保護者との連携、卒業生への対応は改善の余地があると考えます。	
	棟安 正人	4	<p>早期の就職指導や成績不振者への対応など実施出来ている。</p> <p>中途退学は理由が様々であるため、金銭面など何か情報収集により支援が得られる可能性があるものを提供願いたい。</p> <p>卒業生への支援の自己評価が良くない科が多いが、その理由（内容）を伺ってみたい。</p>	
	大森 弘太郎	4	<p>各学科とも就職活動に力を入れているようで、学科によっては就職担当の先生を配置しているところもあり良いと思う。</p> <p>学生と企業がうまく編み合うよう先生方が取り組みをしていることを感じた。</p> <p>学生との面談の実施や精神的なサポートをしている先生もおられるようで、多岐に渡り学生に寄り添っている。</p>	

基準6. 教育環境				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.5	徳永 由紀子	4	<ul style="list-style-type: none"> ・指定規則に則り、施設、設備、教育用具が整備されており、各学科の専門性を深める点で役立っている。 ・学外とも連携し、より専門的な実習が行えている。 ・最新の設備や優れた講師陣が学校の魅力となっている。 	3.4
	佐藤 毅	4	<p>概ね教育に関する施設や設備については特に問題はないと思います。ただ、一部の学科については、十分な整備ができていないようなので、改善が必要と思います。学外実習の充実も図られているようですが、今後は海外における研修も検討するのも良いと思われます。また、防火管理者の選任も望ましいです。</p>	
	棟安 正人	3	<p>必要最低限の施設・設備は整っているようだが、一部前向きな整備が必要との意見もある。学生を集め健全な学校運営を継続するためにも、先行投資での充実や外部との連携も検討してはどうか。</p>	
	大森 弘太郎	3	<p>各学科とも対象は教育環境の改善など必要があるようだ 防火管理者に関しては、校舎が離れているので防火管理者の選任は必要と感じます。</p>	

基準7. 学生の募集と受け入れ				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.8	徳永 由紀子	4	<ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問、オープンキャンパス、出張講義の開講は学生募集に繋がっている。 ・多様な広報手段で情報発信ができている。 	4.0
	佐藤 毅	4	<p>学生募集および受け入れについては、充実していると考えます。入学選考に関しても問題はないと思います。今後は学生数の確保のためにも、web出願手続きと県外入試の実施の計画をすすめていただくのが良いと思います。</p>	
	棟安 正人	4	<p>学生募集は積極的に行っている様子。 ホームページもリニューアルされ、魅力付けを行っている。</p>	
	大森 弘太郎	3	<p>時代にそった入学の受け入れ大勢への変更は必要と感じます。</p>	

基準8. 財務				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
4.0	徳永 由紀子	4	・教育活動の質の向上に向け、 安定的な財政基盤を確立している。 ・会計士のチェックのもと、健全な会計処理が行われている。	4.0
	佐藤 毅	4	財務管理についても、予算・収支計画が適切に行われているので問題はないと考えます。監査、情報公開の点でも問題はないと考えます。	
	棟安 正人	4	予算の策定と同時にそのチェック体制も構築されており適正。やはり財政基盤の学生の確保が課題かと思われる。	
	大森 弘太郎	4	問題なし	

基準9. 法令の遵守				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.8	徳永 由紀子	3	・法令順守するための体制や規程が整備されている。 ・個人情報への不正アクセス防止への安全管理措置が講じられている。 ・自己評価報告書の作成およびホームページにおける公開をもって、情報公開できている。	4.0
	佐藤 毅	4	関係法令、設備基準、個人情報保護、教育情報の公開については適切に行われていると考えます。学校評価はP D C Aサイクルを活用して前年度の課題に対する取り組みの見直しを図っているところで良い思います。	
	棟安 正人	4	各法令の遵守に関しては適正に行われている。 学校評価や教育情報についてはホームページでの公開となっているが、現在の状況を伺いたい。	
	大森 弘太郎	4	問題なし	

基準10. 社会貢献・地域貢献				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
4.0	徳永 由紀子	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教育、研究活動の成果を地域社会に活かす活動を展開できている。 ・学校のボランティア活動の支援、学習機会の提供など、社会貢献できている。 	4.0
	佐藤 毅	4	高等学校へのトレーニング指導、海外教育機関学生の研修受け入れ、ボランティア活動等も充実させているので、高く評価できると考えます。	
	棟安 正人	4	留学生や地域の高校生など多く受け入れており、適正な活動が行われている。社会や地域貢献の意味を学生達にも教え、その重要さを認識させて欲しい。	
	大森 弘太郎	4	問題なし	

総 括		
	委員氏名	意見
	徳永 由紀子	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全般において、数値目標の設定やデータ分析等、示していただけると外部からの評価がしやすい。 ・学校運営の改善や活性化に繋がるよう、貴校の教育活動を理解していきたい。
	佐藤 毅	各項目に関して、問題点を抽出して、改善点を把握し、適切な対応を検討しており、高く評価いたします。
	棟安 正人	<p>全体的に適正な運営が出来ていると感じます。</p> <p>企業従事者の意見としては学校法人と言えど経営の継続は重要、学生の確保や在学生の満足度向上は必須。多くの企業では従業員満足度調査にモチベーションサーベイを導入し、従業員による各職場の具体的な評価点が出される。所属長は課題を一緒になって検討し、次回までの取り組みに生かしていく。</p> <p>評価には出来るだけ目標を数値化するのが有効で、今後検討してみてはどうかと思います。</p>
	大森 弘太郎	<p>学科ごとに多少の差は見られるものの、各教員の先生方は、生徒の学習環境や学習状況、さらには卒業後の進路に至るまで、非常に真摯に対応されていると感じました。</p> <p>そのため、学校運営側としては、教員がより教育に専念しやすい環境を整備するとともに、教員の声に耳を傾け、その意見をもとに改善を図っていくことが重要であると強く感じました。</p>